

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 21 年 6 月 25 日 (2009.6.25)

【公表番号】特表 2005-519173 (P2005-519173A)

【公表日】平成 17 年 6 月 30 日 (2005.6.30)

【年通号数】公開・登録公報 2005-025

【出願番号】特願 2003-574694 (P2003-574694)

【国際特許分類】

C 0 8 F 4/654 (2006.01)

C 0 8 F 10/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 F 4/654

C 0 8 F 10/00 5 1 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 21 年 4 月 30 日 (2009.4.30)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

a) マグネシウムハライドまたはその前駆体を含む固形支持体、1 以上の 1, 3 - ジエーテル及びチタン化合物を含有する液相を接触させてスラリーを得、次いで、

b) ジエーテルベース触媒成分を単離させるために、得られたスラリーを固 / 液分離工程に付す、ここで、

工程 b) は、0.7 ~ 2.0 リットル / (分・Kg) からなる、固 / 液分離速度と最終分離固体量の割合で濾過により行う、
ジエーテルベース触媒成分の製造方法。

【請求項 2】

濾過器が 1 以上のフィルター単位を備えた容器であり、開口部が 1 ~ 200 μm であり、そしてフィルターにかかる差圧が 50 ~ 1000 Kpa である請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

濾過器が、ナッチェフィルターと遠心放出フィルターから選択される請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

工程 a) を濾過器の上流に位置する反応器中で行う請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の方法。

【請求項 5】

工程 a) と b) の両方を濾過器中で行う請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の方法。

【請求項 6】

工程 a) で、Ti 化合物を含有する液相の最初の温度が -20 から 25 であり、80 から 135 の値まで徐々に上昇させる請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

Mg / 1, 3 - ジエーテルのモル比が、0.5 と 50 の間である請求項 1 に記載の方法。

【請求項 8】

工程 a) と工程 b) を逐次何度も繰り返し、最後に分離固形成分を炭化水素またはハロゲン化炭化水素から選択した溶媒で洗浄する請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

工程 a) で供給されるチタン化合物が、 TiCl_4 、 TiCl_3 および式 $\text{Ti}(\text{OR})_n \cdot y\text{X}_y$ (式中、 n はチタンの原子価、 y は 1 と $n - 1$ の間の数、 X はハロゲン、 R は 1 から 10 までの炭素原子を有する炭化水素基である) の Ti - ハロアルコールから選択される請求項 1 に記載の方法。

【請求項 10】

チタン化合物が、 TiCl_4 である請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

工程 a) で供給される固形支持体が、マグネシウムハライドまたは塩化剤と反応して MgCl_2 を生じさせ得る Mg 化合物である請求項 1 に記載の方法。

【請求項 12】

固形支持体が、式 $\text{MgCl}_2 \cdot p\text{ROH}$ (式中、 p は 0、1 と 6 の間の数、 R は 1 ~ 18 の炭素原子を有する炭化水素基である) の球状付加物である請求項 11 に記載の方法。

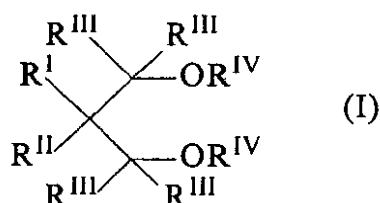
【請求項 13】

固形支持体が、 MgCl_2 / エタノール付加物である請求項 12 に記載の方法。

【請求項 14】

工程 a) で供給される 1,3 - ジエーテルが、式 (I) :

【化 1】

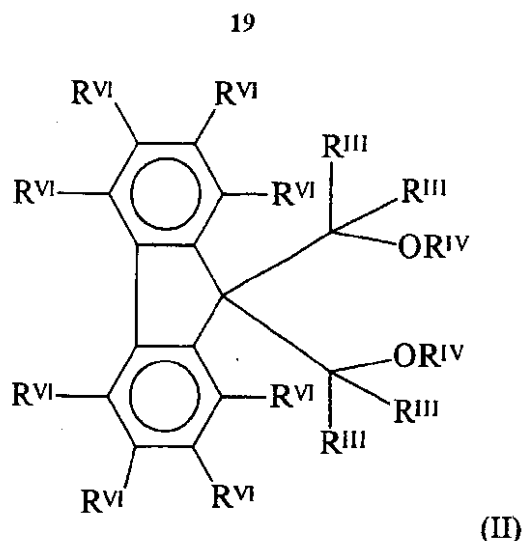


(式中、 R^{I} と R^{II} は水素または線状もしくは分枝状 $\text{C}_1 \sim \text{C}_{18}$ 炭化水素基であり、これらの基は 1 以上の環状構造も形成できる、但し、 R^{I} と R^{II} が同時に水素でありえない；互いに同一または異なる R^{III} 基は、水素または $\text{C}_1 \sim \text{C}_{18}$ 炭化水素基であり； R^{IV} 基は互いに同一または異なり、水素であり得ないことを除くと R^{III} と同一意味であり； $\text{R}^{\text{I}} \sim \text{R}^{\text{IV}}$ 基の各々はハロゲン、 N 、 O 、 S および Si から選択された異原子を含有できる) を有する請求項 1 に記載の方法。

【請求項 15】

1,3 - ジエーテルが、式

【化 2】



(式中、 R^{VI} は同一または異なって、水素；ハロゲン（好ましくはC1とF）；線状または分枝状の $C_1 \sim C_{20}$ アルキル基、 $C_3 \sim C_{20}$ シクロアルキル、 $C_6 \sim C_{20}$ アリール、 $C_7 \sim C_{20}$ アルキルアリールと $C_7 \sim C_{20}$ アラルキル基、これらの基は任意にN, O, S, P, Siとハロゲン（炭素または水素原子または両方の置換基として、特にC1とF）からなる群より選択された1以上の異原子を含んでもよい）の化合物である請求項14に記載の方法。

【請求項16】

1,3 - ジエーテルが、9,9 - ビス(メトキシメチル)フルオレン；9,9 - ビス(メトキシメチル) - 2,3,6,7 - テトラメチルフルオレン；9,9 - ビス(メトキシメチル) - 2,3,4,5, 6,7 - ヘキサフルオロフルオレン；9,9 - ビス(メトキシメチル) - 2,3 - ベンゾフルオレン；9,9 - ビス(メトキシメチル) - 2,3,6,7 - ジベンゾフルオレン；9,9 - ビス(メトキシメチル) - 2,7 - ジイソプロピルフルオレン；9,9 - ビス(メトキシメチル) - 1,8 - ジクロロフルオレン；9,9 - ビス(メトキシメチル) - 2,7 - ジシクロペンチルフルオレン；9,9 - ビス(メトキシメチル) - 1,8 - ジフルオロフルオレン；9,9 - ビス(メトキシメチル) - 1,2,3,4, - テトラヒドロフルオレン；9,9 - ビス(メトキシメチル)1,2,3,4,5,6,7,8 - オクタヒドロフルオレン；9,9 - ビス(メトキシメチル) - 4 - tert - ブチルフルオレンから選択される請求項15に記載の方法。

【請求項17】

式 $CH_2 = CHR$ （式中、Rは水素または1～12までの炭素原子を有するアルキル、シクロアルキル、アリール、アリールアルキルまたはアルキルアリール基である）の - オレフィンの、請求項1～16のいずれかに記載の方法によって得られた固形触媒成分からなる触媒系の存在下で行う単独重合または共重合方法。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0010

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0010】

従って、本発明の目的は、

a) マグネシウムハライドまたはその前駆体を含む固形支持体、1以上の1,3 - ジエーテル及びチタン化合物を含有する液相を接触させてスラリーを得、かつ

b) ジエーテルベース触媒成分を単離させるため、得られたスラリーを固形/液体分離工程に付し、

工程b)は固/液分離速度と最終分離固体量の割合が0.5リットル/(分・Kg)以上でなければならず、好ましくは0.7～2リットル/(分・Kg)の範囲であることを特徴とするジエーテルベース触媒成分の製造方法である。

【発明を実施するための最良の形態】

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0021

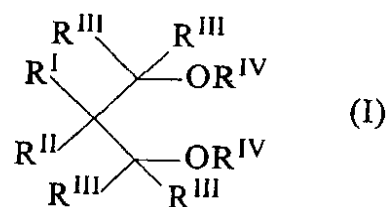
【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0021】

工程a)中に供給される1,3 - ジエーテルは、無水マグネシウムクロライドと $TiCl_4$ に対して特異な反応特性を示す。特に、これらエーテルは、 $MgCl_2$ 100gあたり60ミリモル以下の量で活性無水マグネシウムジクロライドを用いて錯体を形成でき、50%以下のモルで $TiCl_4$ と置換反応する。これらには式(I)：

【化 1】



(式中、 R^I と R^{II} は水素または線状もしくは分枝状 $C_1 \sim C_{18}$ 炭化水素基であり、これらの基は1以上の環状構造も形成できる、但し、 R^I と R^{II} が同時に水素でありえない；互いに同一または異なる R^{III} 基は、水素または $C_1 \sim C_{18}$ 炭化水素基であり； R^{IV} 基は互いに同一または異なり、水素であり得ないことを除くと R^{III} と同一意味であり； $R^I \sim R^{IV}$ 基の各々はハロゲン、N、O、SおよびSiから選択された異原子を含有できる。)